

ぶっく ばらんす1号

2019年

発行年月／2019年3月

【編集・発行】

公益財団法人 新潟県女性財団

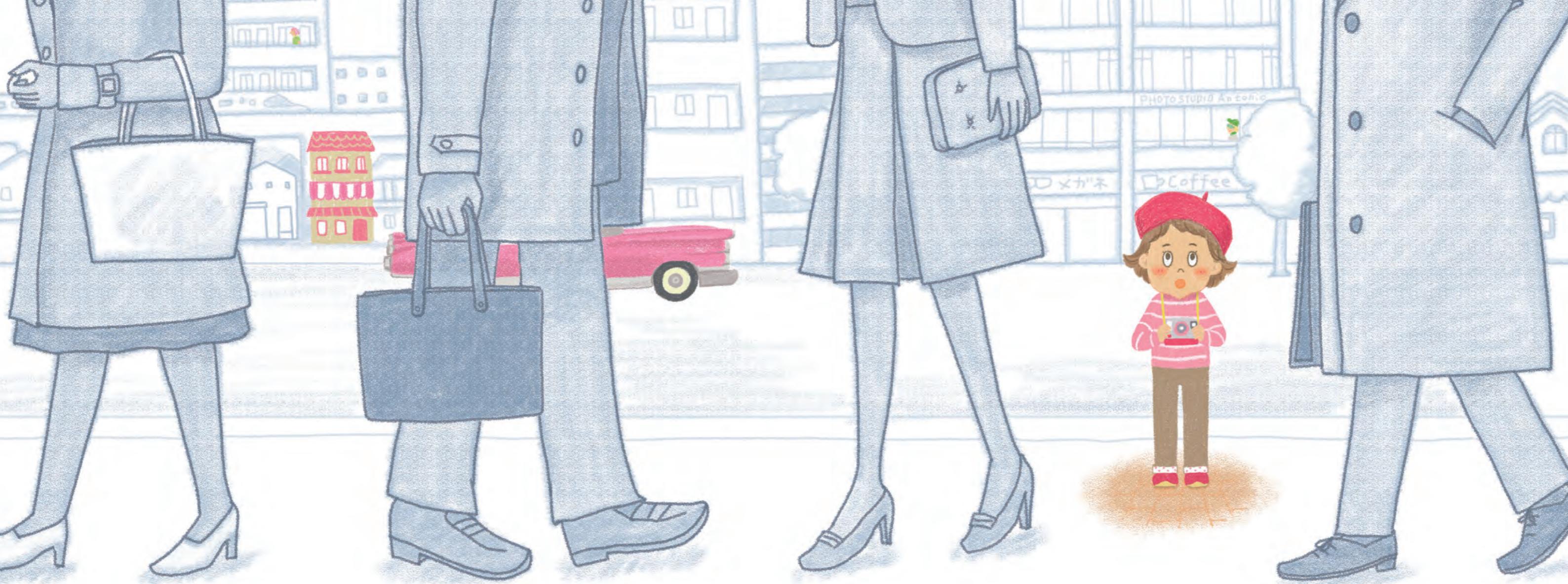
〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2
新潟ユニゾンプラザ2F／新潟県女性センター
TEL 025-285-6610／FAX 025-285-6630
E-mail npwf@npwf.jp



新潟県女性財団ホームページ
<https://npwf.jp>



●「ぶっくばらんす」は、(公財)新潟県女性財団が発行する男女共同参画ハンドブックシリーズです。



ねえ、どんないろが好き？

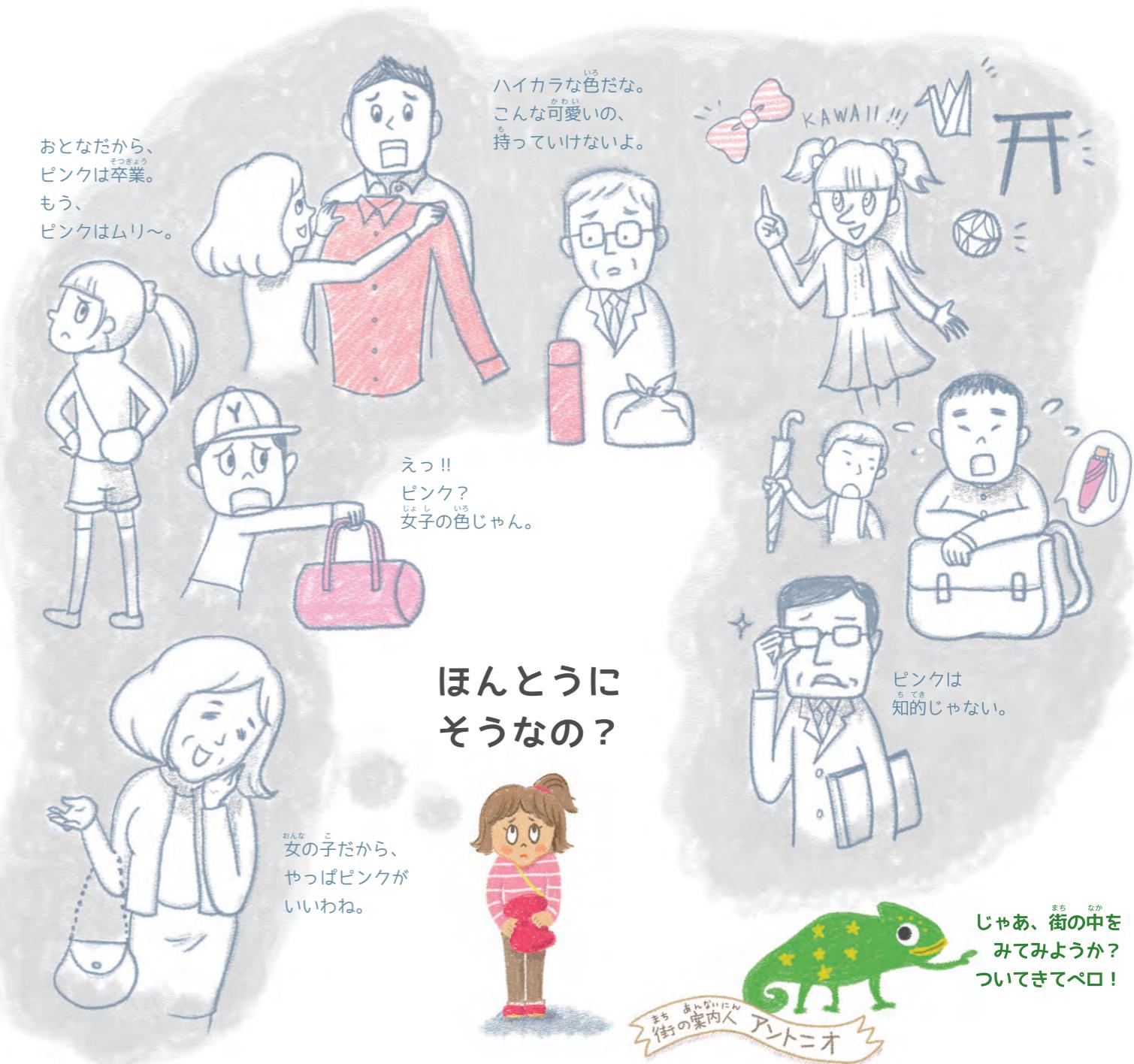


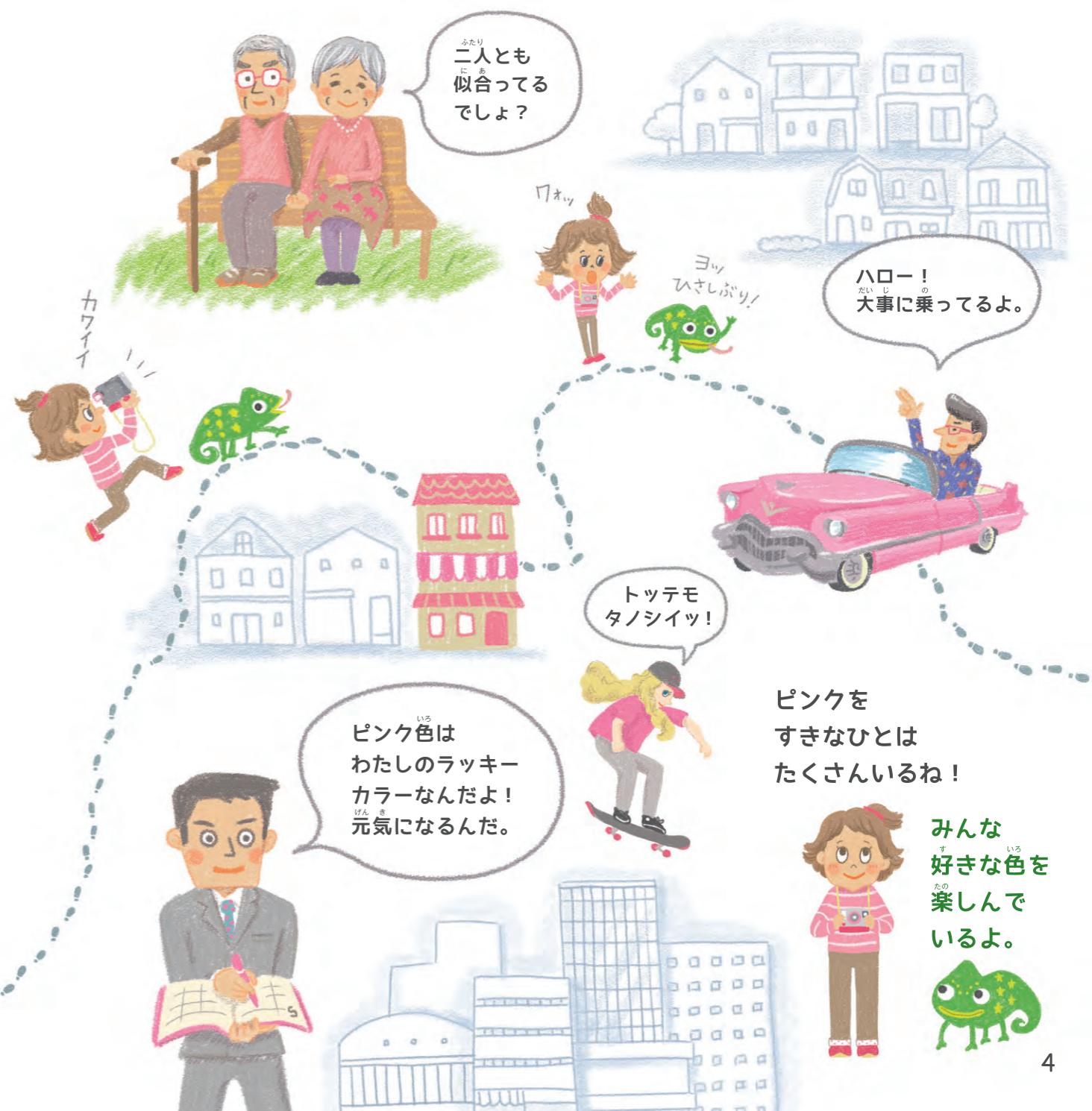
ねえ、どんないろがすき？

どんないろがすき？ってきかれたら、
ピンクがすき！ってこたえる。
ピンクは、ほわっぽわっとしててるし、
やわらかいかんじがする。
ピンクのケツをはくと、スキップしたくなる。
うれしいきもちになる。
だから、ピンクがすき。



でもね、このまえイフレタノ。
やっぱりおんなのこだから、
ピンクがすきなのねって。









おとなの方へ

私たちの周りには「色」がたくさんあります。

子どもが好きな色を選んだ時、大人は「えっ、その色で大丈夫？」と心配になることがあります。

「色」を性別や年齢、思い込みで決めたり、決めつけたりしていませんか？

大人に出来るほんのちょっとのサポートで、子どもが「私はこの色が好きだからこれにする」「私はみんなと同じ色がいい」と、自分で選んで自分らしく決められるように。

そんな願いを込めて創りました。

探してみよう 聞いてみよう 考えてみよう

何か発見があったら
ワタシに教えてペロ！

自由研究にも
おすすめペロ！

あたりまえと思っていたことが、
あたりまえではないと、気づくきっかけ
になるチャレンジを用意しました。
あれ？どうしてかな？と思ったことを
お子さんと一緒に調べてみてください。

好きな色は 年齢によって 変化するかも。

今、好きな色をメモして、
何年かたってから、
もう一度好きな色をあげて
メモと比べてみよう。

本や
インターネットを
使って調べても
いいよ！

自分の持ち物には、 どんな色が多いか 見てみよう。

あなたの好きな色と、
持ち物の色はおなじ色？
ちがう色だった持ち物はあったかな？
ちがう場合はその理由も
考えてみよう。

街の中で 「ピンク」を探せ！！

街の中で「ピンク」の多い
場所を探してみよう。
どうしてそこにはピンクが
使われているのかな？
他の「色」はどうだろう。
いろいろな「色」を探して
みるのもいいかも。

あなたは何色が好き？

その色を選んだ理由はなんだろう？
好きな色を選んだ時、
どんな気持ちになる？
いろんな人にもインタビュー
してみよう。





ピンク大好きの娘が 紺色のポシェットを欲しがるまで

治部 れんげ（ジャーナリスト／東京大学大学院情報学環客員研究員）

みなさんが好きなのは何色ですか？それは昔と今で変わりましたか？お家の方や幼稚園・保育園、学校のお友達はどんな色が好きですか？

私には小学1年生の娘と、4年生の息子がいます。「色の好み」という時、真っ先に思い出すのは娘のことです。

3～5歳の頃、娘はピンクが大好きでした。ピンクの長袖シャツ、ピンクの花模様のついたチュニック、ピンクの長ズボン、靴もピンクという日もありました。一方、私はピンクに対して複雑な気持ちを持っていました。「女の子らしすぎる」と思っていたからです。

「水色も着たら？」「たまには赤もいいんじゃない」。いくら勧めても、娘は全く聞きませんでした。小学校に入るまで、娘の周囲はピンクの服や小物がたくさんありました。本人に聞いてみると、覚えているだけでも、Tシャツ、大小のリュック、鍵盤ハーモニカ（ピアニカ）、ハーモニカ、ヘアブラシと色々あります。

「どうして、あの頃はピンクが好きだったの？」と

娘に聞くと「実は、わたしが好きだったのはハートの形で、ハートの色はピンクだから、ピンクが好きだったの」と言っていました。自分なりの理由があるようです。

カンが鋭い人は「ピンクが好きだった」と過去形で書いていることにお気づきでしょう。そうです。今、7歳の娘が好きなのはピンクではありません。異変に気づいたのは夏休みが過ぎた頃。青や水色の服を好んで着るようになったのです。秋には祖父母から「誕生日に何が欲しい？」と聞かれると、お財布やティッシュ、ハンカチが入るポシェットをお願いしました。「紺色がいい」と娘が言うので私はとても驚きました。

「ピンクじゃなくていいの？」と聞くと「ピンクは子どもっぽいから」と答えるのです。昨年春に小学校に入って環境が変わり、たくさんの大きいお姉さん達と毎日会うようになってからは、好きな色もがらりと変わったのです。

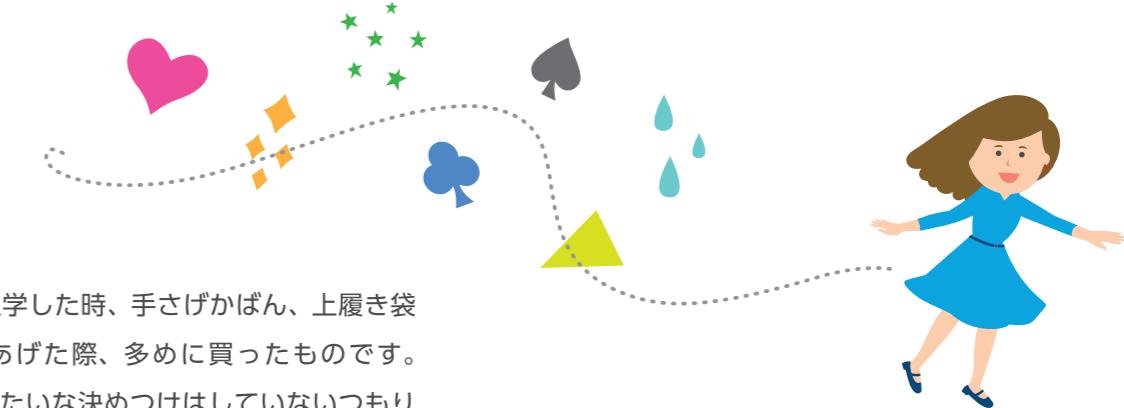
今では娘が学校に着ていく服はグレーや黒、紺、白。冬休みにピアノのレッスンバッグを作ってあげた時は濃い青の無地を選んでいました。この布は息

子が小学校に入学した時、手さげかばん、上履き袋などを作つてあげた際、多めに買ったものです。「青は男の子」みたいな決めつけはしていないつもりでしたが、娘がこれを選ぶとは思いませんでした。

このように娘の色の好みが大きな変化を遂げる中、息子の方は園時代から変わらず、赤や紺、白やベージュ色の服を着て学校へ行っています。パートーやトレーナーは紺色が好きなようですが、概ね、買ってあげたものを着ています。

我が家では娘にも息子にも「男らしくしなさい」とか「女らしくしなさい」と言ったことはなく、全てにおいて「あなたが好きなものを選べばいい」と繰り返し話してきました。同じように育てても、どうなるか「人それぞれ」なのです。

ちなみに娘も、人によって好きな色が違うことは理解しているようです。夏休みに参加したサマースクールで仲良くなつた子が「黄色好き」だったため、娘も黄色が好きになりました。「好きな友達が好きな色は私も好きになることがある」そうです。みんなは、いかがでしょうか？



そうです。好きな色は人それぞれ。そして、同じ人の好みも、その時々によって変わっていくのです。私は今まで「ピンクは女の子の色」と思っていましたが、最近、ある大学の学園祭で濃いピンクのTシャツやポロシャツを着た男子学生をたくさん見かけました。

また、ある時、カラーコーディネートのプロに、自分が似合う色を診断してもらったところ、明るいコーラルピンクや、オレンジを勧められて少し驚きました。普段は黒やグレー、紺の服ばかり着ていたからです。

こんな風に人に勧められて、身に着ける色、持ち物の色を見直すこともあります。友達が身に着けている色を素敵だなと思うこともあります。どんな色が好きか、その理由はなぜか。身近な人と話してみると面白いです。自分と違う人がいること、違いを認めること、「色」に関する議論は、そのきっかけになると思います。